

## 致人

善く戦う者は、人を致して人に致されず。人を致す術とは、敵が安楽であればこれを疲労させ、満腹であれば飢えさせ、安心してくつろいでいればこれを動かし、敵が望む場所に来られないようにする。そうであれば、軍争の要術とするところは、遠いにも拘らず近いと思わせ、迂回しているのに直進していると思わせ、敵をして奴隷のごとくならしめ、向いているのに背を見せていると思わせ、合一しているのに分散していると思わせ、強いにも拘らず柔弱だと思わせ、決していることに疑念を生じさせ、計略に懸けてこれを動かす。これらは皆、軍術の手段である。そうでなければ、いかにして敵を我の奴隷のようにさせることができるであろうか。「三軍をば気を奪うべし。將軍をば心を奪うべし。『孫子』軍争第七の文」と云われる。もつとも、「翳眼（えいがんⅡかすみ眼）に有れば天地窄（すぼ）り、一步度を失すれば千里差ふ。我れ又敵の爲めに致されざらん」ということは、二重先の機、計を知ることにある。口伝。